

【22_164技術系メルマガ】時間足ごとの『根拠の連動』に対する考え方

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

また一週間の相場スタート。僕も張り切って頑張っていこうと思います。

まずはしっかり生き残ることを大事に、戦い抜きましょう。

さて、今日のテーマですが

先日の鉄板セミナーを振り返りつつ、テーマを細分化してこのメルマガで整理していこうと思います。

もちろん、セミナーの内容に比べるとライトな内容になりますが

セミナーの内容を知らない人でも『考えるヒント』として

見てくださった人には、その当時見聞きしたことをさらにご自身で深掘りする手がかりとして

それぞれ活用してください。

□
└─ ■ 「収縮がわからない」という人へ……
└──────────────────┘

「一体どれくらいMAが集まれば“収縮”と見ていいのかわからない」

という疑問を時々メールなどで問い合わせ頂きますが

この悩みが出てくるということは、まだ『MAの収縮』が起こるという“現象”と

チャート上の値動きの過程において「何が起きているのか」を関連づけできていないということです。

まず、そもそも MA(移動平均線)というのは、皆さんご存じの通り

過去のローソク足の価格(基本的に終値)の過去本数分の平均値をプロットしたデータの集合体です。

20SMAなら、過去の20本分の平均、100SMAなら100本分という感じですね。

つまり、『価格の平均値』がMAを作っているわけですから

『MAが収縮』しているということは、つまり『もみ合いが起こっている』ことを意味します。

僕が『MAの収縮』に注目するのも、プライスが大きく動き出す前には

まず『価格の停滞＝もみ合い』が先に起こり、そこから一定のパターンを作って再度大きく動き始めるという傾向を理解しているからです。

では、何をもって「これはMAの収縮だ」と解釈するか？

ここで改めて、マルチタイムフレームによる各時間足の根拠を繋げる分析を行います。

まず、例として以下のチャートを見てみてください。

▼チャート: 下位足の『MA収縮』と上の時間足の根拠との連動の例 ▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-06-13_GU.png

これは、先日のセミナーでも出したGBPUSD(6月6日のトレード)を切り出したチャートですが

『MAの収縮』が非常にきれいな形です。

併せて、同じ時刻のH1足を見ると、小パターンを作りながら複数のコマ足を作って『もみ合い』を作っている事が分かりますね。

この動きを相補的にチェックすることで、このもみ合いを脱出する1波を

『MAの発散』と認識し、3波目を見極めてエントリーする。

その際に自分が取るべきリスク(損切の位置)を決めて置き、リスクリワードを天秤にかけて

そのトレードをやるかどうか、自分の基準に基づいて『決める』

ということを繰り返し行うだけです。

単一の時間足を見ているだけでは輪郭がハッキリしないように思える『MA収縮』であっても

その背景を上の時間足と連動して考えれば、そのような迷いも少なくなっていくます。

実感、体感するまでは難しく感じるかもしれませんが、それを解消するために検証母数を集め

フォワードテストを行うのです。

一朝一夕ではいきませんが、地道に頑張ってください。